



自動車学校の敷地内を飛ぶドローン。教習時間の昼休みを利用し、教官らは飛行の練習をしている=15日、静岡県沼津市、ドローンで撮影

ドローン みんなの身近に

改正航空法施行から3年

ドローンの基本的な飛行ルールを定めた改正航空法施行から12月で3年を迎える。ドローン活用の幅が広がり、全国各地で技術や知識を学ぶドローンスクールが開校している。学校教育の現場でも指導が行われるなど身近な存在になってきた。企業と契約を結ぶ「プロレーサー」も活躍している。

100人以上が参加する「ジャパンドローンリーグ」で今季5戦3勝と年間チャンピオンの岡聖章さん(21)は7月、インターネット広告事業を展開する企業とスポンサー契約を結んだ。世界大会にも挑戦する岡さんは「エンターテインメントとして、もっと普及させたい」と話す。

スクール事業には、少子化や車離れに危機感をも

つ自動車学校が相次いで参入している。5月にスクールを開校した東部自動車学校(静岡県沼津市)では、12人の教官らがドローン講師の資格も併せ持ち、指導にあたる。一般社団法人の全国自動車学校ドローンコンソーシアムによると、登録しているだけでも全国に22校あるという。

改正航空法の施行で、住宅密集地やイベント会場などの飛行には国交省の許可が必要になった。同省航空局によると、申請件数は増加の一途をたどる。一方で警察庁のまとめでは、無人航空機に関わる航空法違反の昨年度検挙数は、2016年度の倍近くの68件。急速に広がる裏で無承認飛行などのトラブルも相次いでいる。(写真・文 長島一浩)



ドローンレースの大会前日、コース上で操縦する岡聖章さん。モニター付きのゴーグルをつけて送信機を操り、飛ばす速さを競い合う=24日、兵庫県加東市

SCENE



女性専用のドローンスクール「チームはちどり」で受講者を指導する代表の飯原夏子さん(右、33)。「子育てが落ち着いた世代にも始められる。雇用を促進したい」=10月27日、東京都足立区



防災訓練で、ドローンを操縦する元消防士の鳴原(しぎはら)カ三さん(63)。60歳以上で構成する集団「ドローン・ジジィ」の一員として主に福島県など東北6県で活躍している=17日、福島県楡葉町



各分野の社会人から仕事について学ぶ外部研修で、ドローンの勉強をする埼玉栄高校の1年生たち。実際に操縦したり、プログラミングして自動飛行させたりした=16日、さいたま市西区